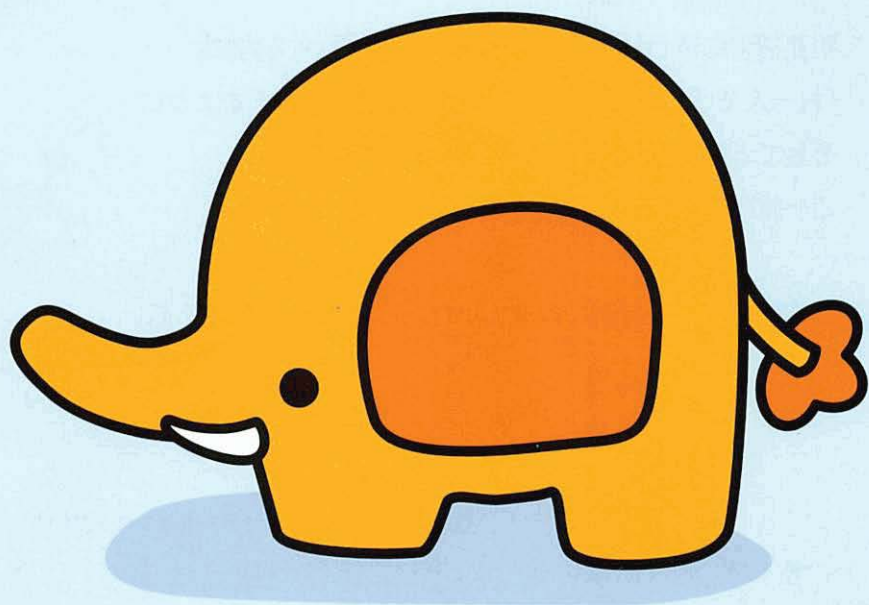


あいたい

自助グループ メッセージ集



はじめに

自助グループ「絆」の例会は、毎月1回開いています。

心おきなく泣いたり、怒ったり、笑ったり、

自由にお話できる場所です。

また、命の大切さについてお伝えする講師活動にも

ご協力くださっています。

ここに、自助グループの紹介と活動の記録をまとめました。

犯罪被害に遭われて、孤独の中にいらっしゃる方に、

「お一人ではないですよ」の声が、どうか届きますように。

そしてどのような支えを必要とされているのか、

と一緒に考える機会になることを願っています。

多くの皆様に、お手にとっていただけたら幸いです。

平成27年11月

公益社団法人 被害者サポートセンターあいち

ごあいさつ	1
目次	2
自助グループ「絆」とは	3
自助グループに参加するには	4
活動報告(講師実績)	5-6
浅田千佳	7-10
岡田尚士	11-12
岡田結加里	13-17

自助グループ「絆」とは

交通事故被害者遺族が「自助」というテーマをもって、期間を決めずに向き合っていく人が集まっている会です。毎月一回、例会を開いています。センタースタッフも同席します。

自助グループに参加しようと思った動機

- 参加する事によって自分たち遺族が、息子のことを風化させないという戒めが自分にある。
- 同じ立場になった人と話がしたかった。

自助グループに参加して良かったこと

- プライバシーが外に出ることがないので、安心して話ができます。
- 同じ悩みを持った家族の集まりなので、話が通じやすく分かりあえます。
- 話をした後は、気持ちがずいぶん楽になります。
- ここで、苦しさ・空しさ・悲しみを話し、共に泣き・共に笑いあえる人たちと出逢い、もう一度笑っていける自分になれたこと。



自助グループに参加するには



電話

被害者サポートセンターあいちの
相談窓口までお電話ください。

な や み ゼロ
052-232-7830

月～金（祝日・年末年始を除く）AM10:00～PM4:00

※お電話には通話料がかかります。相談・支援は無料です。個人情報を守ります。

相談

専門家・相談員が
あなたのお話を直接伺います。



参加

あなたの意思で
自助グループに参加してください。

活動報告（講師実績）

活 動 内 容	講 師
平成21年8月26日(水) 10:00～10:30 平成21年度名古屋市交通指導員夏季研修	浅田千佳
平成21年10月23日(金) 13:15～15:45 平成21年度名古屋市犯罪被害者支援ボランティア養成初級講座	浅田千佳
平成22年10月22日(金) 13:15～15:45 平成22年度名古屋市犯罪被害者支援ボランティア入門講座	浅田千佳
平成22年12月22日(水) 13:00～15:00 刈谷市／愛知教育大学 交通事故防止 刈谷警察とタイアップ	浅田千佳
平成23年1月14日(金) 10:00～13:30 瀬戸市／瀬戸市PTA講演会	浅田千佳
平成23年10月21日(金) 13:15～15:45 平成23年度名古屋市犯罪被害者等支援ボランティア入門講座	浅田千佳
平成24年11月22日(木) 13:30～15:30 平成24年犯罪被害者等支援ボランティアステップアップ講座	岡田尚士
平成25年10月18日(金) 10:00～12:00 平成25年度名古屋市犯罪被害者等支援入門講座	岡田結加里
平成26年5月12日(月) 15:00～17:00 名古屋市／天白区自動車学校 自動車学校副管理者講習	浅田千佳
平成26年5月13日(火) 15:00～17:00 名古屋市／天白区自動車学校 自動車学校副管理者講習	岡田尚士 岡田結加里
平成26年6月14日(土) 9:35～10:20 岡崎市／岡崎市立豊富小学校 命の大切さ 小学生向け講話	岡田尚士



活 動 内 容	講 師
平成26年10月31日(金) 15:10～15:30 平成26年度名古屋市犯罪被害者等支援入門講座	浅田千佳
平成26年11月27日(木) 16:30～17:30 名古屋市／昭和自動車学校 教習指導員向け講話	岡田尚士
平成27年2月19日(木) 18:45～19:30 名古屋市／三井住友名古屋ビル 三井住友海上火災保険(株)中部在勤者に「交通事故遺族」として	浅田千佳
平成27年2月24日(火) 10:00～10:30 名古屋市／中区役所 名古屋市交通指導員 中堅研修	岡田結加里
平成27年5月21日(木) 14:20～14:40 名古屋市／中区役所 平成27年度名古屋市職員研修 交通事故事件被害者遺族の現状	岡田尚士
平成27年6月7日(水) 14:15～14:45 名古屋市／ウイングあいち サポートセンターあいち総会	岡田結加里
平成27年8月20日(木) 15:10～15:30 平成27年度名古屋市犯罪被害者等支援入門講座	岡田尚士



あいたいね、憲伸

浅田千佳



最愛の息子、憲伸に逢えなくなって9年が経とうとしています。

本当なら今年17才、高校2年生です。

どんな声でどんな話を私にするのだろう。。

背はどの位で、どんな進路に進んだのだろう。。

ハンサムになっていたかな?彼女はできていたかな?

想像しかできません。

『ほんとうのきもち』は憲伸が中耳炎の手術をする入院前に、初めて書いてくれた手紙です。そして最後の手紙です。

かあさんのところに生まれてきてくれてありがとう。でも、ごめんね。もっと長く生きられたかもしれないのに、かあさんが生んでしまっでごめんね。あいたくて、あいたくて、声が聞きたくてしかたありません。



ほんとうのきもち。

かあさんへ

きき氏ありがとうございます

よんだよ。にゅーにゅーと

いした。ね。うれしいわ。

憲伸うれしいです

がんばるわ。ちゅー

あさんがやった。ういんが

さくらんできれい。めい

ますけんしんより

憲伸



しっかり できた ときの 気持ちを きろくして おこう

おうちで「おかあさんがごはん
やばしやゴッパをはこんでいて
たらいたことをやってあげます
せんたくものをほしてあるものも
てあげたり、せんたくものをたたんで
あげたりしてあります、おかあさん
はよろこびました、おかあさんが
てあつたをみているときにまんや
ふいふいをもってきてあげてあげます

21

瀬戸で交通死…最愛の子失う

涙こらえて
話せる母に

二〇〇六年十一月十五日。愛知県瀬戸市の浅田恵伸君(当時22)が交通事故で亡くなった。最愛の命と突然別れ、涙だけの日々を過ごす母・千佳さん。を救ったのは、苦しみに耳を傾け、分かち合ってくれた人々。母さん、泣いてばかりじゃ嫌だ。心の中で生き続ける息子への声にも背を押され、千佳さんは恵伸君の生きた証しを手記にまとめた。(社会部・藤野治典)

恵伸君は、小学校前の横いがられていた末っ子。周断歩道で軽トラにね。周は気を使って、恵伸君のられた。二人の姉にもかわくことに触れず、千佳さん



人目を避けて暮らすようになった。

転機は、事故から一年余りが過ぎた昨年一月。周囲の勧めで、社団法人「被害者サポートセンターあいち」(名古屋市中)の催しに足を運んだ。そこでは、交通死遺族が癒えぬ悲しみを訴えていた。「私は知っている人にも言えないのに」センターに通い始め、相談員に思いをぶつけた。話しては泣く、を繰り返すうち、言いたいことが次第に

悲しみ手記につづる

ニギハヤヒ
前線

言葉にならなかった。

半年が過ぎ、気持ちを文章にしてはどうか、と勧められた。一行書いては涙が

の魂も奪われたのです」次は自分の口で伝えようと思う。「今すぐは無理。でも必ず、泣かずに話せる自分になる」。心の中で交わした恵伸君との約束だ。

あられ、一カ月かけて書き上げた手記は、原稿用紙六枚分。昨秋の催しで初めて発表した時は、自分で読めず、代読してもらった。

「恵伸といた八年間が夢なのか、恵伸のいない今が夢なのか。」「今も私は生きていくのに死んでいる、死んでいるのに生きている、恵伸が殺された白に私

発行された犯罪被害者手記集を手に、息子への思いを改めて「こいつがいてと伝えたい」と話す浅田千佳さん(名古屋市内で)

私が自助グループに参加する理由

岡田尚士

私は平成21年10月13日に息子が自宅前で交通事故にあった父親です。自助グループは息子の葬儀のあとに妻がきっかけで存在を知りました。最初は何とかして刑事起訴をする為に色々な方法とか色々な知恵を教えてもらっていました。刑事不起訴が確定してからは縁が無くなると思っていたのですが、同じ境遇の方と直にお話をしていくうちに、私達の事故の話を出来る場所が限定されていることに気が付きました。話が出来ないことがストレスになる事にもその時初めて気が付きました。

それから、月一回行われている定例会に参加しました。定例会と言っても同じ境遇のメンバーが近況報告とか、現状おきている悩みなど、時間だけ決めて話をします。話をした後は少し疲れますが、溜まっていたストレスはかなりすっきりします。

あるとき、支援員の方から一度セミナーの講演をしてみないか？と話があり息子のこと、事故のことなどを人前で話す事にしました。最初は原稿作成の段階で事故のことを思い出しながらの作成でしたので、話をする前が少し辛かったです。話をする事はさほど緊張しませんでした。

講演会を数回重ねるうちに、私の講演に対しての考えが変わってきました。私達が話をできる場所は限られている事を思い出し、息子の事が



風化してしまうことへの危機感が、講演会を通して息子の話を聞いてもらい、私達遺族の悲しみ・苦しみを少しでも聞いて欲しい、と思うようになりました。理解するのではなく、聞いてほしい! 耳をかたむけてほしい! という考えになりました。

亡き息子の事を話す事ができる貴重な場です。話す事は上手くないですが、亡き息子への想いを伝えたいという気持ちで続けています。今後も自分のできる範囲で自助グループの活動をしていきたいです。



自助と私の今

岡田結加里

平成21年10月13日、自宅前の道路で、向かいの公園へ渡る途中、加害者運転の乗用車がオーディオを触りながら、歩行中の息子に衝突。加害者は、わき見運転の為、息子の存在をみた時にはブレーキが間に合わず、息子をはね飛ばしたそうです。加害者はわき見、スピードを10キロ超過、スピード超過が無ければ事故は避けられたと言いました。

44日後の平成21年11月25日に頭部外傷脳挫傷で、主人と私が見守る中、日付けの変わった午前1時40分に亡くなりました。

その日から不思議にも4人で食卓を囲んでいた食卓テーブルの脚が一本、二本と壊れていくのでした。主人は、体調を崩し、会社を解雇。半年間の治療を経て、再就職、再び体調を崩し手術、半年後に障害者となり、再々就職と私達の家庭を直撃しました。

娘も当時小学5年生。事故以来、お風呂には一人で入れなくなり、トイレのドアも開けたまま、道路を歩く時も手をつながないと歩けなくなったり、一人で留守番することも、日常生活全てを一人ですることが出来なくなりました。

あの秋の日、息子は運転手の自分勝手な不注意により、突然交通事故



に遭い、もしも10秒でも、1秒でも、時間がずれていれば……

その2ヶ月後のお正月には大阪のテーマパークに家族旅行に行くことを楽しみに、また毎年誕生日、クリスマスを誰よりも楽しみにしていて元気一杯に生きていた息子が……その年の夏休みに念願叶って行ったキッザニアの写真が遺影となるなんて…

特に、苦しい出産を経験してようやく出会えた我が子。そんな大切な、大切な我が子を失う苦しみは、一緒に死にたいと本気で思うくらい苦しいことなのです。

でも私が死んだら、娘を苦しませる。何より死ぬ強さもこの時にはない。自分の無力さと喪失感で毎日毎日泣くことしか出来ませんでした。しかし泣いていても気分は晴れません。

この時に今もお世話になっている被害者サポートセンターあいちのことを知り、この先私達に、何が出来るのか、何をするのかなど、アドバイスを受けながら少しずつ進んでいくことに決めました。

親身に話を聞いてもらったり、わからないことについて丁寧に説明してもらったり、ティッシュペーパーを自由に使って下さいとの言葉でたくさん泣かせてもらいました。息子の代わりに加害者に罰を下す事に全力を

尽くす為に知識、知恵を拝借させていただきました。どうしたら加害者に罰を下す事が出来るのか必死になって行動しました。

しかし、一途に思いつめて後悔なく色々な動きをとりましたが、冷静に考え結論、どんな結果が出ても、私には気持ちがおさまるものでもないということに、私は気付かされました。

とにかく憎いの一言。刑務所に入ったっていずれは、普通の暮らしに戻る！ 私達遺族にとって納得する結論が無い！ どんなに一生懸命やっても悔いは残る！ 辛いけど逃げられない。

息子が生きて戻ってこない限り、元の生活に戻るなど出来ない現実と直面し、だったら人任せにして裁かれたって納得出来るわけがない、私が加害者のことを一番憎いのだから私が裁けばいいことに気がついたのです。

私達は毎日毎日事故現場を目の前に生活を送っています。余計に毎日が辛いわけです。今はただ、息子の仏前に手を合わす日々です。そんな私達遺族の苦しみと加害者に対する強い憎しみに卒業などありません。加害者が普通の暮らしに戻ることで、私にはどうしても許せない。だから私は、加害者に毎年の息子の命日には自宅で私達家族3人と加害者として息子の供養をすることを求めました。



一生お互いが死ぬまで顔を見合わせ、息子のこと、これからの供養、泣くのも、わめくのも、辛い思いも、愚痴も全てぶつけていくことだと思いました。

まだまだこれから先も生きていく中で、色々な課題に直面するかと思います。しかしこれまで色々なことに気付かされたり、こうして寝込まずここまで頑張れたのも、息子が亡くなってしばらくしてから、私の声に耳を傾け、気持ちを理解しようとして下さる方、受け止めようとして下さる人の存在でした。それがサポートセンターあいちの方々です。私達遺族の心の支えとなり勇気と力を下さった事は、生涯忘れる事はありません。今もずっと見守ってくれています。

時には、同じ立場になった人と話すことで、話が通じやすく、人それぞれの考えや、意見もあります。同じ悩み、悲しみ、苦しみをもった方との時間が少しだけ私が前向きな人生に進むことへの助けになった気がします。落ち着くまでには、色々なオプションやステップがありますが、何より心の支えが被害者家族にとって本当に必要だと私は痛感させられました。

「もう一度笑っていける人生」を目標に、悔しい思いをバネに、息子の母であることを再認識し、息子とは離れていても心と心を向き合い、



痛みに一人で耐えていた息子の思いを封印せず、8年半一生懸命生きてきた息子の「生きていた証」を講演などを通じ再び息子と成長していきたい。これが今の私です。



あとがき

自助グループの例会は、
センターの支援員もスタッフとして同席しています。
メンバーのお子さんの頑張り屋さんの性格、
そして親思いのやさしいエピソードなど、
温かいご家族の絆をお聞かせいただいています。
お父さんお母さんの思いを形にしたいと、
出来上がったものがこの絵本のような小冊子です。
空の上にも、届きますように…



交通事故や犯罪の被害にあわれた方やご家族のための相談電話

な や み ゼロ

相談
専用

052-232-7830

〈相談・支援無料〉毎週 月～金(祝日は除く) AM10:00～PM4:00



愛知県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体

公益社団法人 **被害者サポートセンターあいち**

交通事故被害者遺族自助グループ「絆」